

第5章 テスト・バッテリー

1. テスト・バッテリー

心理検査には、さまざまなものがあり、それらは、それぞれ測ろうとするものを独自にもっている。

従って、個人をよく理解するため、あるいは、個人のある行動の要因を診断するためには、多くの特性について、多面的・総合的に診断することが必要である。

心理検査は、大別すれば、知能、学力、性格、適性及び環境についての検査があり、これらの諸検査を問題によって選択することにより、多面的に診断できる。

しかしながら、多面的な診断を求めるあまり、あれもこれもと、あまり多くのテストを用いると、結果の解釈に、時間と労力を費やしてしまい、総合的な診断ができにくくなってしまう。だから、対象となる問題の性質に応じて、慎重に、しかも最小必要な面から選択し、結果を求めて、能率的で、実効のある診断を目指さなければならない。

理想的には、診断しようとする問題に関して、仮説をたて、その仮説を検討するために、必要なテストを組み合わせるというやり方が望ましいのである。

このようなテストの組み合わせのことを、「テスト・バッテリー」と呼んでいる。

ここで注意したいことは、「テスト・バッテリー」によって、診断の方法が客観化され、科学化されたとしても、教育相談をまったくコンピューターシステムに乗せることはできないということである。

これは、検査をする人、される人、ともに、自然科学の対象とちがって、人間であるがゆえに、内的、あるいは、外的な条件によって、支配されやすいということからである。

2. テスト・バッテリーを編成するための前提

教育の営みは、子供を理解することから出発するとよくいわれている。しか